

2020年度決算 投資家説明会

2021年5月18日



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

皆さま、こんにちは。太田でございます。
常日頃より当社をご支援いただき、御礼申し上げます。

昨年5月、一回目の緊急事態宣言下において、
動画で皆様へ中期経営計画を発表してから丸一年が過ぎました。

当時は、新型コロナウイルスという未知の感染症に対する不透明感が
今よりずっと大きかったわけですが、それでも、まさか今年もまた、
このような形で投資家説明会を開催することになるほど、
影響が長期化するとは想像もしていませんでした。

2020年度は、まさにコロナとともに過ぎた1年となりましたが、
我々も、お客さまの資金繰りを支えることを最優先するとともに、
従業員の安全確保にも努め、金融機関として、社会のインフラとして、
その使命をしっかりと果たしてまいりました。

この後ご説明いたしますが、業績面では、
上期は本来の実力を発揮できなかったものの、下期には活動の量・質を着実に戻し、
また堅調な市況も追い風となって、連結業務純益・ボトムライン収益ともに、
期初予想を大幅に上回る結果となりました。

もちろん水準自体に満足している訳ではありませんが、
業績の実態面がコロナ以前の巡航速度に戻りつつあることに対しては、安堵しております。

ただ一方で、コロナ禍を経ることで、
我々にとっての課題や加速すべき戦略が明確になりました。
そうした分野に対しては、これまで以上にスピード感を持った対応が必要です。

本日は、そうした課題に対する今後の取組を中心にお話しできればと思っています。

本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有株式に係るリスク、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収および経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。

為替レート（月末TTM）

| | 20/3末 | 21/3末 |
|------|---------|---------|
| 1ドル | 108.81円 | 110.71円 |
| 1ユーロ | 119.52円 | 129.75円 |

本資料における計数、表記の定義

| | |
|----------------|---|
| SMFG | 三井住友フィナンシャルグループ（持株会社） |
| SMBC | 三井住友銀行 |
| SMBC信託 | SMBC信託銀行 |
| SMFL | 三井住友ファイナンス&リース |
| SMBC日興 | SMBC日興証券 |
| SMCC | 三井住友カード |
| SMBCCF | SMBCコンシューマーファイナンス |
| 三井住友DS | 三井住友DSアセットマネジメント |
| SMBCAC | SMBC Aviation Capital |
| 主要現地法人 | SMBCバンクインターナショナル、 SMBCバンクEU、三井住友銀行（中国） |
| 連結 | 三井住友フィナンシャルグループ連結 |
| BC単体 | 三井住友銀行単体 |
| 経費（BC単体） | 臨時処理分を除く |
| 業務純益 | 一般貸倒引当金繰入前 |
| 親会社株主純利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 |
| リテール事業部門（RT） | 国内の個人向けビジネス |
| ホールセール事業部門（WS） | 国内の法人向けビジネス |
| グローバル事業部門（GB） | 海外ビジネス |
| 市場事業部門（GM） | 市場関連ビジネス |
| OCI | その他有価証券評価差額金 |

本日のアジェンダ

| | | | | | |
|------------|--|-----------|-----------|-----------------------|-----------|
| I | 決算総括 | 4 | IV | 資本政策 | 49 |
| | 業績サマリー | 5 | | 資本政策の基本方針 | 50 |
| | COVID-19影響 | 8 | | 資本の状況 | 51 |
| | | | | 株主還元策 | 52 |
| | | | | 政策保有株式 | 55 |
| II | Transformation & Growth | 24 | V | カラを、破ろう | 56 |
| | 2022年へのロードマップ | | | | |
| | ①財務目標 | 25 | | | |
| | ②連結業務純益 | 26 | | | |
| | ③ボトムライン | 27 | | | |
| | 7つの重点戦略 | 28 | | | |
| III | Quality | 40 | | Appendix | 61 |

本日のアジェンダです。

まず、20年度実績について、コロナ影響も含めてご説明した後、
中計の進捗と今後の取組、資本政策、
最後に、新規ビジネス創出に向けて、私が注力している取組について、ご説明します。



I. 決算総括

業績サマリー

連結業務純益、親会社株主純利益ともに目標を上振れ。連結業務純益は前年並みを確保

| | (億円) | 20年度 | 前年比 | 目標比 | | |
|----|---------------|---------|--------|--------|----------------|--|
| 1 | 連結粗利益 | 28,062 | +376 | | 連結粗利益 | 国内の消費低迷で決済・消費者金融ファイナンスは減益。一方、資産運用ビジネスや海外証券ビジネスが堅調に推移した他、市場事業部門の機動的なポートフォリオ運営が奏功し増益 |
| 2 | 営業経費 (経費率) | ▲17,471 | ▲75 | | 営業経費 | COVID-19影響による事業経費抑制やコスト削減施策による減少があった一方、海外ビジネスを中心に増加 |
| 3 | 持分法投資損益 | 250 | ▲311 | | 持分法投資損益 | SMBACACやアジア出資先を中心に減益 |
| 4 | 連結業務純益 | 10,840 | ▲10 | +1,140 | 与信関係費用 | COVID-19影響により国内外ともに増加した他、将来のコスト発生に備えたフォワードルッキング引当を計上 |
| 5 | 与信関係費用 | ▲3,605 | ▲1,899 | △895 | 株式等損益 | 政策保有株式の売却益が減少（約650億円、前年比約▲360億円）した一方、ETFの売却益増加や株式償却の減少等により増益 |
| 6 | 株式等損益 | 926 | +121 | | その他 | 株式関連のリスクコントロールを目的とした先物取引における損失計上等により減益 |
| 7 | その他 | ▲1,050 | ▲422 | | 特別損益 | 三井住友DSIに係るのれんの減損（約▲310億円）を計上 |
| 8 | 経常利益 | 7,110 | ▲2,210 | +1,610 | | |
| 9 | 特別損益 | ▲388 | +46 | | | |
| 10 | 税コスト | ▲1,563 | △113 | | | |
| 11 | 親会社株主純利益 | 5,128 | ▲1,911 | +1,128 | | |
| 12 | ROE | 5.4% | ▲2.2% | | | |

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

5

20年度決算のサマリーです。

表の4行目、連結業務純益は、新型コロナウイルスによるマイナス影響を受ける中、トップライン拡大に向けた資本投入や良好な市場環境に支えられて、期初の目標を大きく超過し、前年並みの水準を確保することができました。

5行目の与信関係費用は、国内外ともに増加した他、今後のコスト発生に備えたフォワードルッキング引当を計上しました。

加えて、消費者金融ファイナンス事業における利息返還損失引当金の繰入等、プロアクティブな対応を行った結果、11行目の親会社株主純利益は5,128億円となりました。

(参考) 主要グループ会社の業績

SMBC

| | (億円) | 20年度 | 前年比 | 目標比 |
|--------------------|------|--------|--------|--------|
| 1 業務粗利益 | | 14,817 | +697 | |
| 2 うち資金利益 | | 9,364 | +583 | |
| 3 うち投資信託解約損益 | | 338 | +98 | |
| 4 国内 | | 5,835 | +218 | |
| 5 海外 | | 3,529 | +364 | |
| 6 うち役員取引等利益 | | 3,307 | +74 | |
| 7 国内 | | 1,762 | ▲62 | |
| 8 海外 | | 1,546 | +136 | |
| 9 うち特定取引利益+その他業務利益 | | 2,125 | +40 | |
| 10 うち国債等債券損益 | | 800 | +58 | |
| 11 経費 | | ▲8,165 | ▲84 | |
| 12 業務純益 | | 6,652 | +612 | +1,452 |
| 13 与信関係費用 | | ▲2,427 | ▲1,931 | △473 |
| 14 株式等損益 | | 635 | +117 | |
| 15 その他臨時損益 | | ▲499 | +723 | |
| 16 当期純利益 | | 3,380 | +207 | +1,680 |

SMBC以外の主要グループ会社

(左: 20年度実績、右: 前年比)

| (億円) | SMBC日興 ^{*1} | SMCC | SMBCCF |
|-------|----------------------|-------------|------------------------|
| 業務粗利益 | 4,245 +636 | 3,856 ▲345 | 2,597 ▲147 |
| 経費 | ▲3,078 ▲27 | ▲3,173 △108 | ▲1,106 △33 |
| 業務純益 | 1,167 +609 | 687 ▲236 | 1,491 ▲114 |
| 当期純利益 | 926 +480 | 358 ▲24 | 541 ▲360 ^{*2} |

(持分法適用)

| | SMBC信託 | 三井住友DS ^{50%} | SMFL ^{*5} | 50% |
|-------|------------------------|-------------------------|--------------------|------|
| 業務粗利益 | 402 ▲92 | 341 ▲10 | 1,768 | +34 |
| 経費 | ▲439 △46 | ▲323 ▲3 | ▲857 | ▲10 |
| 業務純益 | ▲37 ▲46 | 18 ▲13 | 952 | +37 |
| 当期純利益 | ▲85 +242 ^{*3} | ▲280 ▲290 ^{*4} | 336 | ▲276 |

*1 SMBC日興の海外持分法適用関連会社（SMFGの連結子会社）の利益を含む内部管理ベース
 *2 19年度の税効果累計上額増加の反動 *3 19年度ののれん減損の反動 *4 のれん減損の計上
 *5 内部管理ベース

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 6
 All Rights Reserved.

2021年度の業績目標

連結

| (億円) | 実績 20年度 | 目標 | |
|----------|------------|--------|--------|
| | | 21年度 | 上期 |
| 連結業務純益 | 10,840 ① | 11,200 | 5,500 |
| 与信関係費用 | ▲3,605 ② | ▲3,000 | ▲1,600 |
| 経常利益 | 7,110 | 8,800 | 4,300 |
| 親会社株主純利益 | 5,128 ③ | 6,000 | 3,000 |

① 連結業務純益

市場事業部門の収益平準化を見込む一方、COVID-19影響の改善やRT・WS・GBの収益増強により、前年比+360億円の増益

② 与信関係費用

引続き先行き不透明なCOVID-19影響を勘案し、▲3,000億円を予想

③ 親会社株主純利益

20年度に計上したのれん減損の反動等もあり、前年比+872億円の6,000億円を予想

BC単体

| (億円) | 実績 20年度 | 目標 | |
|--------|------------|--------|--------|
| | | 21年度 | 上期 |
| 業務純益 | 6,652 | 6,150 | 2,900 |
| 与信関係費用 | ▲2,427 | ▲1,700 | ▲1,000 |
| 経常利益 | 4,361 | 5,300 | 2,400 |
| 当期純利益 | 3,380 | 3,700 | 1,700 |

COVID-19影響 ①サマリー

20年度のCOVID-19影響は期初予想比下振れ
感染長期化を含め依然不透明な環境が継続するも、21年度は影響が縮小する見通し

| (億円) | 20年度 | | | | | 21年度 | |
|-------------------|---------------------|---------|---------------------|----------|---------|---------------------|---------|
| | COVID-19 影響 A | 予想 B | COVID-19 影響 C | その他 D | 実績 E | COVID-19 影響 F | 予想 G |
| 連結業務純益 | ▲ 1,700 | 9,700 | ▲ 1,000 | ① +440 | 10,840 | ▲ 700 | 11,200 |
| 与信関係費用 | ▲ 2,600 | ▲ 4,500 | ▲ 1,700 | - | ▲ 3,605 | ▲ 1,000 | ▲ 3,000 |
| 親会社 株主純利益 | ▲ 3,100 | 4,000 | ▲ 1,900 | - | 5,128 | ▲ 1,200 | 6,000 |
| リスクアセット | 累計+5兆円 | 92兆円 | 累計+3兆円 | | 92兆円 | 累計+3兆円 | 93兆円 |
| CET1比率 (増減) | ▲0.5% | 9.5% | ▲0.3% | | 9.8% | | |
| COVID-19影響はすべて概算値 | | | | | | | |
| 経費率 | 19年度 62.8% | | 20年度 62.3% | | | | |

① 市場事業部門の上振れが主因

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / All Rights Reserved. 8

コロナ影響はプラス・マイナス両面あり、かつ複合的に作用しているため、どこにどれだけの影響があったと正確に計算することは困難ですが、みなさまにイメージを掴んでいただくために、このページではおおよその影響額をお示ししています。

20年度については、A列の、我々が期初に想定していた影響額に対し、連結業務純益、クレジットコストともに、C列の通り、実際の影響額は大きく下振れました。

結果として、ボトムライン収益に対する実際のコロナ影響額は▲1,900億円となりますが、これがないと、7,000億円を上回り、概ね、中期経営計画の想定に近い着地だったということが出来ます。

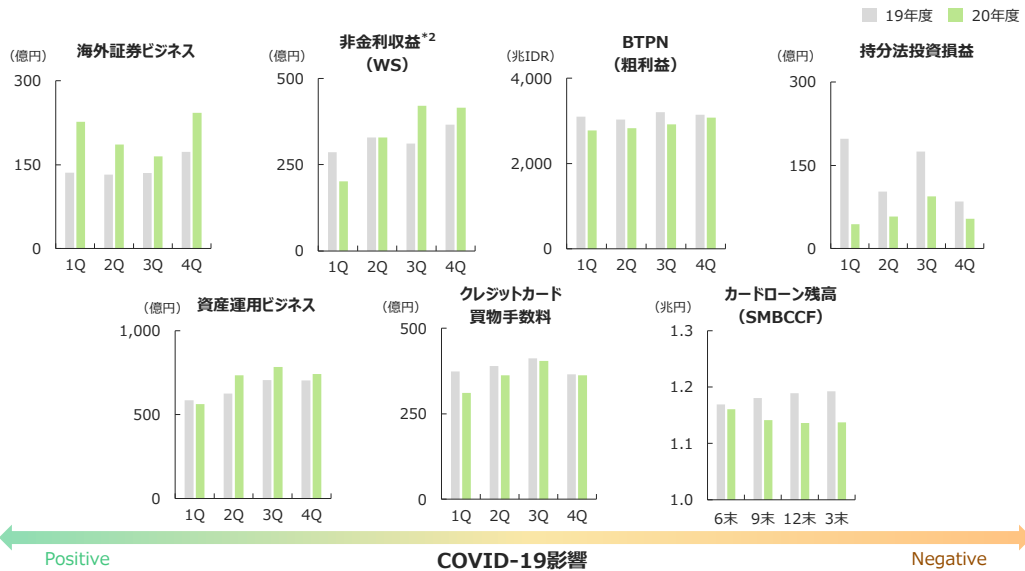
21年度は、特に消費者金融ファイナンスにおいて、マイナス影響が継続する見通しですが、一方で、経済活動の正常化や航空機需要の回復に伴い、非金利収入や持分法投資損益は前年比プラスを見込んでいるため、連結業務純益に対するコロナ影響額は▲700億円と、20年度から300億円改善する見込みです。

クレジットコストについても、▲1,000億円と、コロナ影響の縮小を見込んでおり、21年度のボトムラインに対する影響額は、全体で▲1,200億円程度と見えています。

COVID-19影響 ②ビジネスライン別

下期以降、多くのビジネスが回復基調

RT・WS・GBの月間平均業務純益は、上期730億円⇒下期870億円*1に改善



*1 中期経営計画の為替前提105円で算出

*2 シンジケーション、ストラクチャードファイナンス、不動産ファイナンス、証券

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

9

ビジネスライン別に見ると、

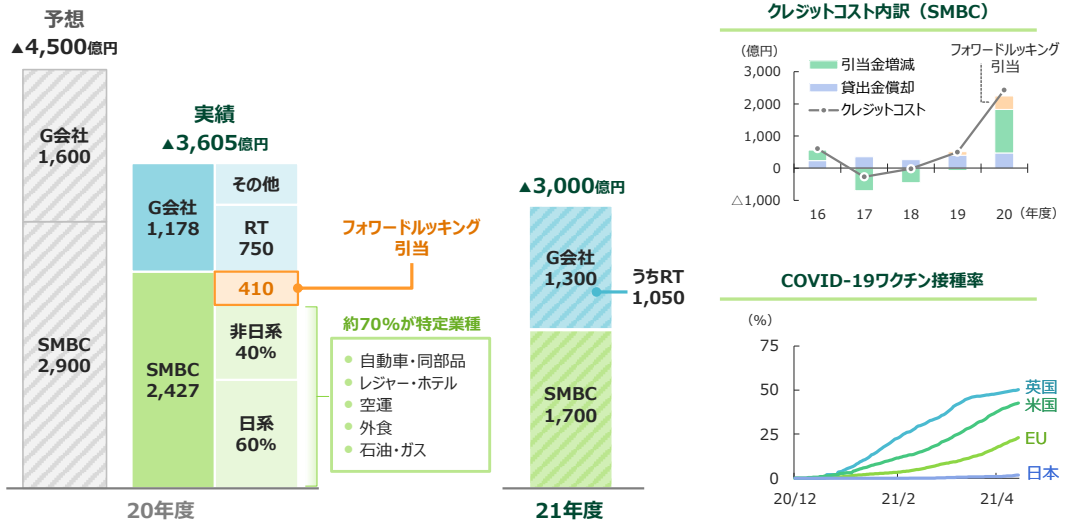
左側にある海外証券ビジネスは、コロナ影響がプラスに作用した一方、本来我々が得意としている、クレジットカードや消費者金融が国内の消費低迷に伴って、特に上期は苦戦しました。

また、持分法投資損益は、特に航空機リース事業の落ち込みで、前年比大きくマイナスとなっています。

それでも、下期にかけては多くのビジネスが回復基調に転じた結果、リテール・ホールセール・グローバルの3事業部門の月間平均業務純益は、上期の730億円から、下期は870億円と大幅に改善しています。

COVID-19影響 ③クレジットコスト

20年度のSMBCにおけるクレジットコストは、約70%が特定業種に集中
 COVID-19影響の大きい業種の見極めが進んだため、フォワードルッキング引当も計上



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 10

クレジットコストについては、これまで申し上げてきた通り、各国の政策効果や流動性支援が奏功し、想定比低位に推移しました。また、約7割が特定業種に集中し、コロナ影響が大きい業種の見極めが進んだことから、フォワードルッキングな引当も実施しましたが、それを含めても、20年度実績は想定を900億円程度下回って着地しています。

今後はワクチンの普及に伴い、内外経済も回復に向かうと見ているものの、3度に亘って緊急事態宣言が発令されたことや、変異株の流行等を踏まえれば、依然不透明感を払拭することはできないため、21年度も3,000億円のクレジットコストの発生を予想しています。

これは、以前より申し上げている、我々のクレジットコストの巡航速度である2,000～2,500億円と比べて、引続き高い水準です。

中計最終年度には巡航速度に戻せるよう、しっかりとコントロールしてまいります。

COVID-19影響 ④航空機リース

国内線の需要回復等を踏まえ、今後の持続的成長に向けた施策に注力

業況

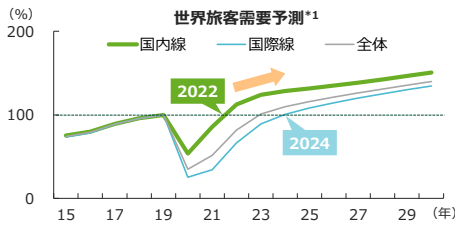
20年度は引当・減損が拡大するも黒字をキープ

SMBCAC

(百万米ドル)

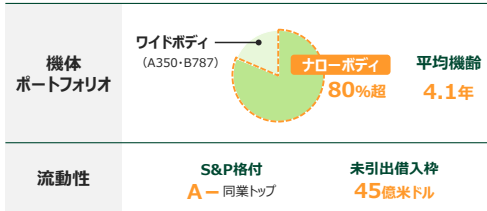
| | FY19 | FY20 | 前年比 |
|-------|-------|-------|------|
| リース収入 | 1,135 | 1,119 | ▲16 |
| 引当・減損 | ▲32 | ▲334 | ▲302 |
| 当期純利益 | 334 | 17 | ▲317 |

国内線旅客需要は2022年には回復の見込み

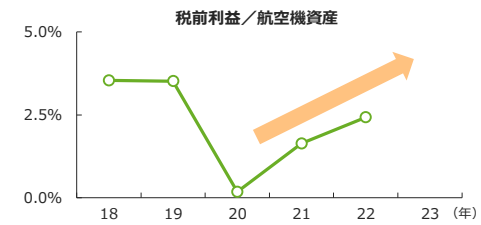


*1 IATA / Tourism Economics

取組



採算を意識した機材購入と売却による資産効率の向上



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

航空機リース事業は、厳しい業務環境が続いておりますが、20年度のボトムラインは、なんとか黒字を確保しています。

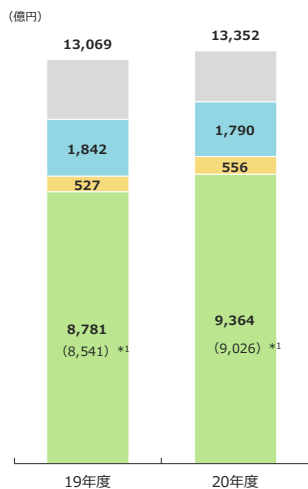
左下にお示しの通り、世界の旅客需要は20年半ばを底に、回復基調を描いており、特に、国内線は来年にも、コロナ前の水準に戻る見込みです。

これまでもお伝えしている通り、ここは、我々のポートフォリオの8割超を占めるナローボディの主戦場であり、我々の業績回復のスピードも、競合対比早くなるのではないかと期待しています。

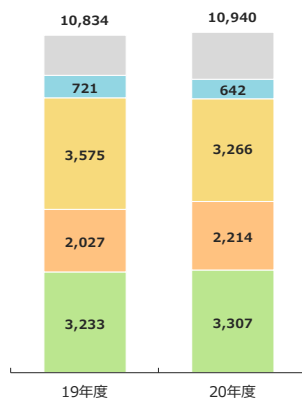
連結粗利益

■ SMBC ■ SMBC日興 ■ SMCC ■ SMBCCF ■ その他

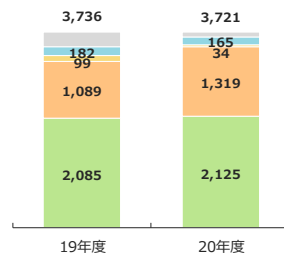
資金利益



役務取引等利益



特定取引+その他業務利益

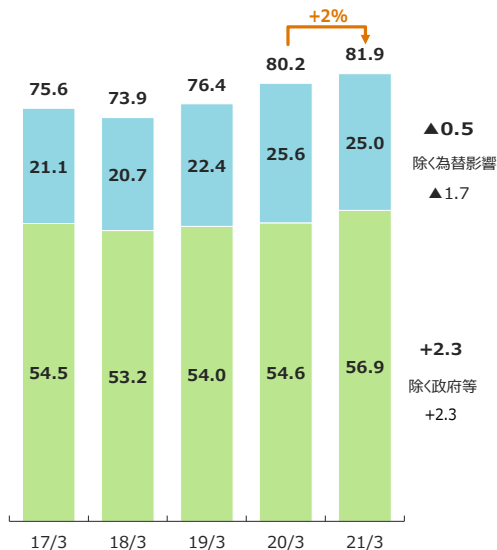


*1 投資信託解約損益を除く

貸出金*1

貸出金残高

(兆円) ■ 国内店 ■ 海外店および特別国際金融取引勘定



国内預貸金利回差

| (%) | 20年度 | 前年比 | 上期 | 下期 |
|--------|------|-------|------|------|
| 貸出金利回 | 0.84 | ▲0.07 | 0.83 | 0.84 |
| 預金等利回 | 0.00 | △0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 預貸金利回差 | 0.84 | ▲0.07 | 0.83 | 0.84 |

(参考) 政府等向け貸出金控除後

| | | | | |
|--------|------|-------|------|------|
| 貸出金利回 | 0.86 | ▲0.07 | 0.86 | 0.86 |
| 預貸金利回差 | 0.86 | ▲0.07 | 0.86 | 0.86 |

期中平均貸出金残高・スプレッド*2

| | 平均残高 (兆円) | | スプレッド (%) | |
|---------------------|--------------|-------------|-----------|-------|
| | 20年度 | 前年比*4 | 20年度 | 前年比 |
| 国内貸出 | 56.4 | +4.0 | 0.70 | ▲0.03 |
| 除く政府等・SMFG向け | 53.7 | +3.9 | 0.73 | ▲0.04 |
| うち大企業 | 19.3 | +3.4 | 0.50 | ▲0.03 |
| 中堅・中小企業 | 18.8 | +1.2 | 0.60 | ▲0.03 |
| 個人 | 12.3 | ▲0.6 | 1.42 | ▲0.04 |
| グローバル事業部門 運用資産*3 | 3,388 億ドル | +253 億ドル | 1.16 | +0.06 |

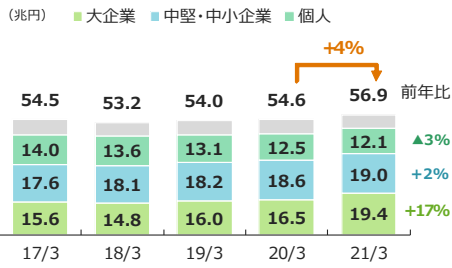
*1 BC単体 *2 内部管理ベース

*3 SMBC、主要現地法人、SMBC信託等の合算。貸出金・貿易手形・有価証券の合計 *4 為替影響等調整後ベース

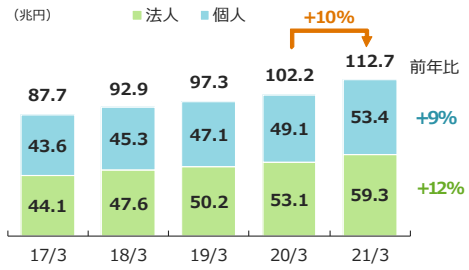
Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

国内預貸金*1

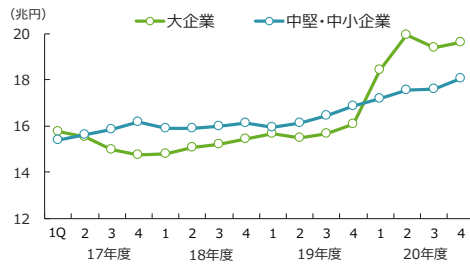
貸出金残高*2



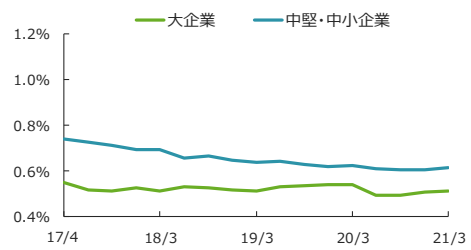
預金残高



法人向け平均貸出金残高*2,3



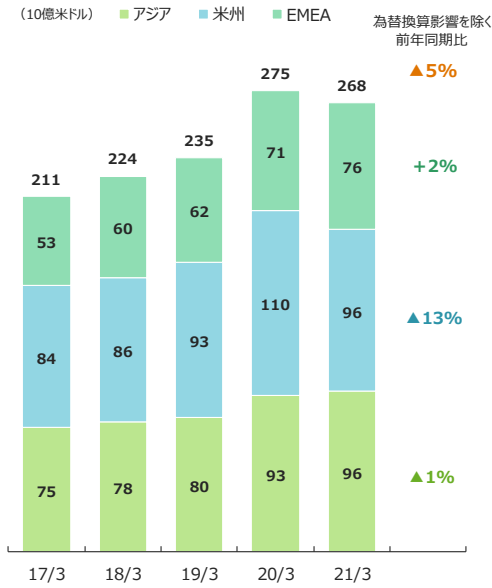
法人向け貸出金スプレッド*2,4



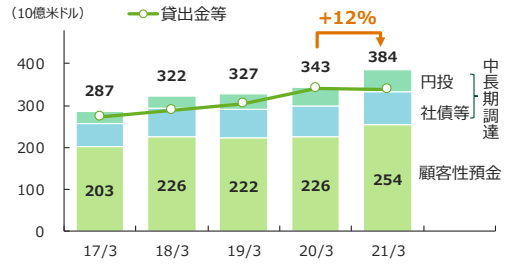
*1 BC単体 *2 内部管理ベース *3 四半期平残、政府向け等を除く。中堅・中小企業はエリア企業向けを除く。
*4 ストックベース、政府向け等を除く

海外預貸金*1

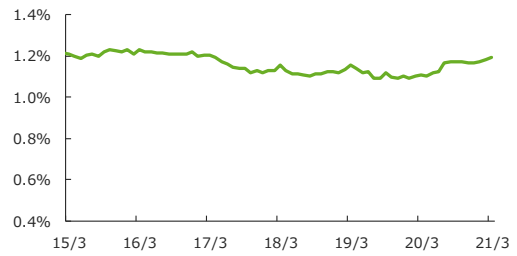
貸出金残高



外貨ファンディング



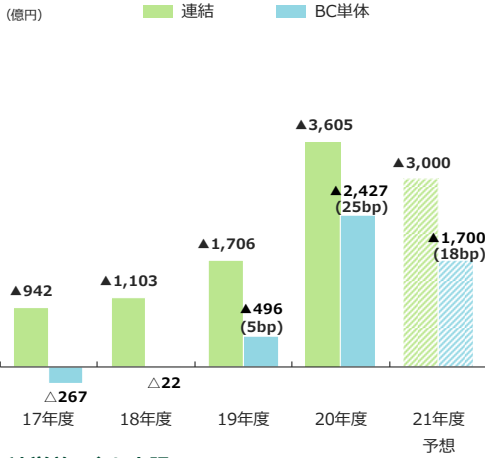
貸出金スプレッド*2



*1 内部管理ベース、SMBCと主要現地法人の合算
*2 月次、ストックベース

アセットクオリティ

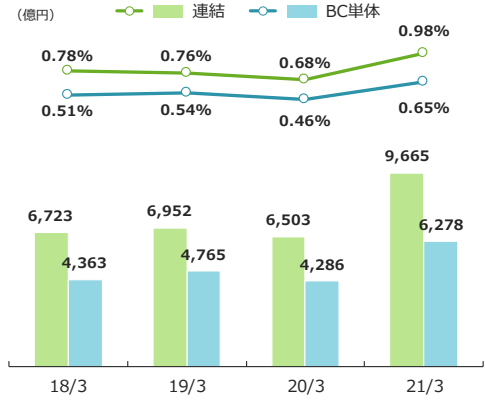
与信関係費用*1



連単差の主な内訳 (概数)

| (億円) | 20年度 | 前年比 |
|--------|-------|-------|
| SMBCCF | ▲ 520 | △ 210 |
| SMCC | ▲ 220 | △ 100 |

不良債権残高*2



総与信末残 (兆円)

| | | | |
|------|----|----|----|
| 連結 | 91 | 96 | 99 |
| BC単体 | 89 | 93 | 96 |

その他要注意先 (除く要管理債権)

| | | | |
|------|-----|-----|-----|
| BC単体 | 0.8 | 0.9 | 1.9 |
|------|-----|-----|-----|

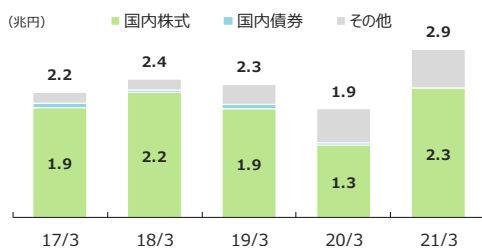
*1 与信関係費用比率 = 与信関係費用 / 総与信 *2 不良債権比率 = 金融再生法開示債権残高 (除く正常債権) / 総与信

有価証券①

■ その他有価証券の内訳（連結）

| | 残高 | | 評価損益 | | |
|-------|------|---------|---------|--------|---------|
| | (億円) | 21/3末 | 20/3末比 | 21/3末 | 20/3末比 |
| 合計 | | 364,112 | +97,620 | 29,318 | +10,395 |
| 国内株式 | | 36,933 | +9,565 | 22,556 | +9,861 |
| 国内債券 | | 176,552 | +75,878 | 80 | ▲135 |
| うち 国債 | | 142,936 | +72,057 | ▲141 | ▲69 |
| その他 | | 150,627 | +12,177 | 6,682 | +669 |
| うち 外債 | | 121,101 | +4,606 | 13 | ▲2,543 |

■ 評価損益の推移

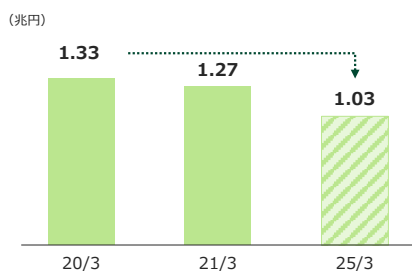


■ 政策保有株式

| | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 削減状況 (21/3末) | 削減額 | 550億円 |
| | 未売却の売却応諾残高 | 540億円 |
| | 削減・応諾済総計 | 1,090億円 |

■ 削減計画

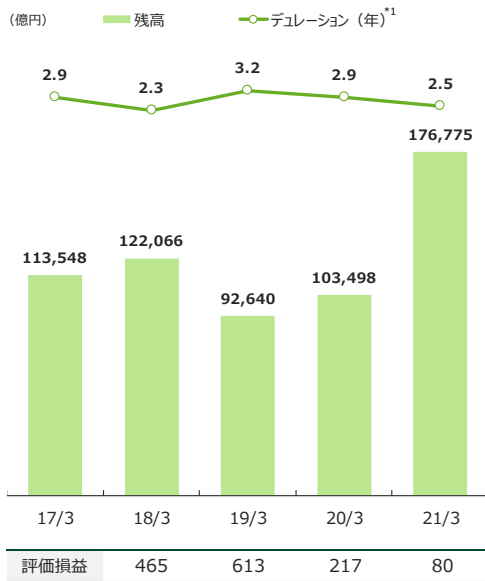
2020-24年度（5カ年）で△3,000億円削減



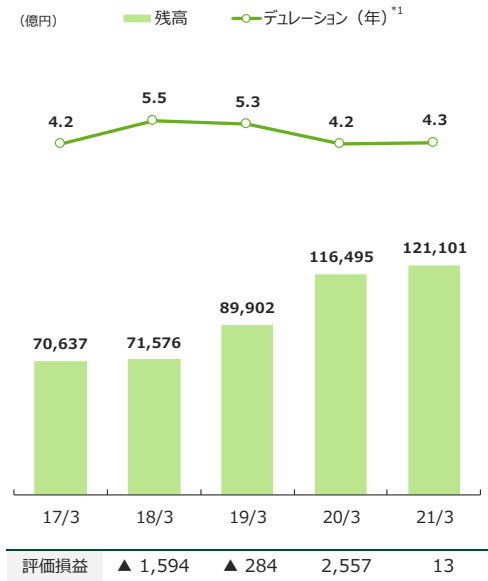
Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 17

有価証券②

円債（連結）



外債（連結）



*1 SMBC単体。ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債を含まず。円債では、15年変動利付国債のデレージョンはゼロで計算

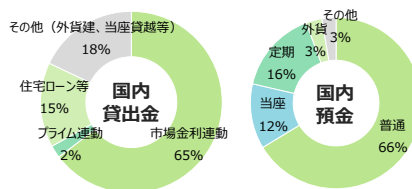
Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

バランスシート

連結B/S

| | (兆円) | 21/3末 | 20/3末比 |
|----------------------|------|--------------|---------------------|
| 資産の部合計 | | 242.6 | +22.7 |
| うち 現預金 | | 72.6 | +10.8 |
| うち 日銀当座預金 (BC単体) | | 59.8 | +11.1 |
| うち 貸出金 | | 85.1 | +2.6 |
| うち 国内貸出金 (BC単体) | | 56.9 | +2.3 |
| うち 大企業 ^{*1} | | 19.4 | +2.9 |
| 中堅・中小 ^{*1} | | 19.0 | +0.4 |
| 個人 ^{*1} | | 12.1 | ▲ 0.3 ^{*2} |
| うち 有価証券 | | 36.5 | +9.4 |
| うち その他有価証券 | | 36.4 | +9.8 |
| うち 株式 | | 3.7 | +1.0 |
| 国債 | | 14.3 | +7.2 |
| 外国債券 | | 12.1 | +0.5 |
| 負債の部合計 | | 230.7 | +21.6 |
| うち 預金 | | 142.0 | +15.0 |
| うち 国内預金 (BC単体) | | 112.7 | +10.5 |
| 個人 | | 53.4 | +4.4 |
| 法人 | | 59.3 | +6.1 |
| うち 譲渡性預金 | | 12.6 | +2.4 |
| 純資産の部合計 | | 11.9 | +1.1 |
| 預貸率 | | 55.1% | |

貸出金・預金の構成比 (BC単体)^{*1}



外貨B/S^{*1,3}

| (10億米ドル) | |
|-----------|--------------------------------|
| 貸出金等 338 | 顧客性預金 (含む中銀預金) 254 |
| その他 136 | 中長期調達 (社債、円投等) 130 |
| 外債、NCD 73 | CD/CP 70 |
| | インターバンク (含む債 [*]) 93 |
| 資産・負債 547 | |

*1 内部管理ベース *2 住宅ローン証券化分 (20年度: 1,017億円) の加算調整後
*3 SMBCと主要現地法人の合算

資本・リスクアセット

| | 21/3末 | 所要水準 ^{*1} |
|-----------------------|---------------|--------------------|
| 自己資本比率 | | |
| 総自己資本比率 | 18.61% | 11.5% |
| CET1比率 (完全実施基準) | 16.00% | 8% |
| 除<OCI | 12.8% | - |
| CET1比率 (バーゼルⅢ最終化) | 11.5% | 8% |
| 除<OCI | 9.8% | - |
| 外部TLAC比率 | | |
| リスクアセットベース | 25.82% | 16% |
| レバレッジエクスポージャーベース | 9.77% | 6% |
| レバレッジ比率 | 5.65% | 3% |
| LCR (20年度4Q平均) | 140.1% | 100% |

| | (億円) | 20/3末 | 21/3末 |
|----------------------|------|-------------------------------|------------------|
| 総自己資本 | | 115,520 | 122,893 |
| Tier1資本 | | 102,499 | 111,993 |
| うちCET1資本 | | 95,813 | 105,628 |
| Tier2資本 | | 13,021 | 10,900 |
| 外部TLACの額 | | 181,620 | 193,733 |
| リスクアセット | | 615,991 | 660,080 |
| レバレッジエクスポージャー | | 2,374,887^{*2} | 1,981,708 |

*1 カウンターシクリカルバッファ (CCyB) 勘案せず

*2 日本銀行に対する預け金を含む

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 20
All Rights Reserved.

事業部門別実績①

| | ROCE1*1 | | | 業務純益（億円） | | | リスクアセット（兆円） | | |
|--------|---------|-------|----------|----------|-------|----------|-------------|-------|-----------|
| | 20年度 | 前年比*2 | 22年度計画*3 | 20年度 | 前年比*2 | 22年度計画*3 | 20年度 | 前年比*2 | 20-22年度*3 |
| リテール | 9.4% | +1.6% | 12% | 2,192 | ▲244 | 3,050 | 12.3 | +0.1 | +0.4 |
| ホールセール | 5.6% | ▲4.6% | 9% | 3,885 | +215 | 4,050 | 33.4 | +2.6 | +1.1 |
| グローバル | 6.2% | ▲1.3% | 9% | 3,667 | +39 | 4,300 | 35.6 | ▲0.1 | +2.5 |
| 市場 | 20.4% | +0.2% | 17% | 4,135 | +220 | 3,650 | 5.4 | +0.3 | +1.7 |

*1 利息返還損失引当金繰入等（リテール）、外貨中長期調達コスト（ホールセール・グローバル）を含みます。バンキング勘定の金利リスク見合い（市場）を含む

*2 金利・為替影響等調整後

*3 20年度基準での内部管理ベース

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 21
All Rights Reserved.

事業部門別実績②

■ リテール

| | (億円) | 20年度 | 前年比 ^{*1} |
|----------------------|------|---------|-------------------|
| 業務粗利益 | | 11,274 | ▲ 487 |
| 預貸金収益 ^{*2} | | 1,229 | ▲ 91 |
| 資産運用ビジネス | | 2,822 | +201 |
| 決済ビジネス | | 3,865 | ▲ 360 |
| 消費者金融ファイナンス | | 2,924 | ▲ 157 |
| 経費 | | ▲ 9,104 | △ 241 |
| ベース経費 | | ▲ 7,368 | △ 150 |
| 業務純益 | | 2,192 | ▲ 244 |
| ROCET1 ^{*3} | | 9.4% | +1.6% |
| リスクアセット (兆円) | | 12.3 | +0.1 |

■ ホールセール

| | (億円) | 20年度 | 前年比 ^{*1} |
|----------------------|------|---------|-------------------|
| 業務粗利益 | | 6,349 | +148 |
| 預貸金収益 | | 2,111 | +149 |
| 外為・為替手数料 | | 1,176 | ▲ 62 |
| SMBC シンジケーション | | 496 | +125 |
| ストラクチャードファイナンス | | 186 | ▲ 76 |
| 不動産ファイナンス | | 97 | ▲ 16 |
| 証券 | | 592 | +46 |
| 経費 | | ▲ 2,999 | △ 37 |
| ベース経費 | | ▲ 2,923 | △ 44 |
| 業務純益 | | 3,885 | +215 |
| ROCET1 ^{*4} | | 5.6% | ▲ 4.6% |
| リスクアセット (兆円) | | 33.4 | +2.6 |

*1 金利・為替影響等調整後ベース *2 除く消費者金融ファイナンス
*3 除く利息返還損失引当金繰入等 *4 除く外貨中長期調達コスト

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 22
All Rights Reserved.

事業部門別実績③

■ グローバル

| | (億円) | 20年度 | 前年比 ^{*1} |
|---------------------|------|---------|-------------------|
| 業務粗利益 | | 7,237 | +429 |
| 預貸金収益 | | 3,004 | +175 |
| ローン関連手数料 | | 1,234 | +72 |
| 証券 | | 821 | +245 |
| 経費 | | ▲ 3,833 | ▲ 124 |
| ベース経費 | | ▲ 3,721 | ▲ 65 |
| 業務純益 | | 3,667 | +39 |
| ROCE1 ^{*2} | | 6.2% | ▲1.3% |
| リスクアセット (兆円) | | 35.6 | ▲ 0.1 |

■ 市場

| | (億円) | 20年度 | 前年比 ^{*1} |
|---------------------|------|-------|-------------------|
| 業務粗利益 | | 4,607 | +221 |
| SMBC市場営業部門 | | 3,259 | ▲ 23 |
| 経費 | | ▲ 829 | ▲ 33 |
| ベース経費 | | ▲ 796 | ▲ 19 |
| 業務純益 | | 4,135 | +220 |
| ROCE1 ^{*3} | | 20.4% | +0.2% |
| リスクアセット (兆円) | | 5.4 | +0.3 |

*1 金利・為替影響等調整後ベース *2 除く外貨中長期調達コスト
*3 含むバンキング勘定の金利リスク見合い

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 23
All Rights Reserved.



Ⅱ. Transformation & Growth

続いて、中期経営計画の進捗と、今後の取組について、ご説明します。

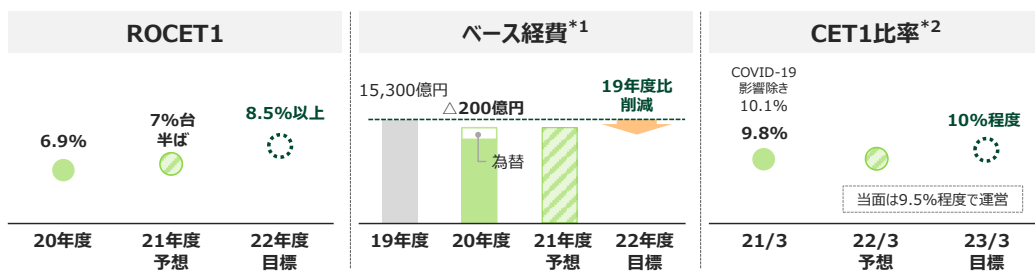
2022年へのロードマップ ①財務目標

中期経営計画（20～22年度）

基本方針



財務目標



*1 営業経費から「収益連動経費」「先行投資にかかる経費」等を除いたもの *2 バーゼルⅢ最終化・除OCI

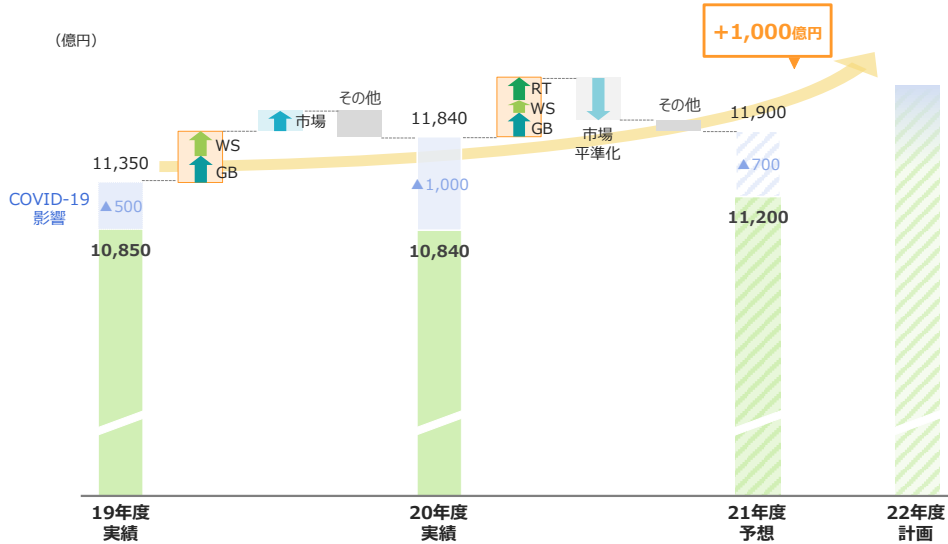
3つの財務目標のうち、ROCE1は、ボトムラインの減益を受けて、目標比低水準に留まりました。

一方で、ベース経費は、コロナ禍での事業活動の制約やコスト削減施策により、前年を200億円程度下回る水準となりました。

CET1比率は9.8%と、当面の運営水準のレンジ内で推移しています。

2022年へのロードマップ ②連結業務純益

中期経営計画目標の連結業務純益+1,000億円は不変
21年度は、RT・WS・GBの収益増強により、着実な増益を目指す



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 26
All Rights Reserved.

昨年5月に中期経営計画を発表した際、2022年へのロードマップをお示しました。

当時は、最終年度である22年度には、コロナ影響は収束すると想定していましたが、コンシューマーファイナンスビジネス等を中心に、残念ながら一定のマイナス影響が残る見通しです。

それでも、3年で連結業務純益1,000億円の増益を目指すという目標は変わりません。

中計施策の加速とコストコントロールの強化により、コロナ影響を打ち返していくつもりです。

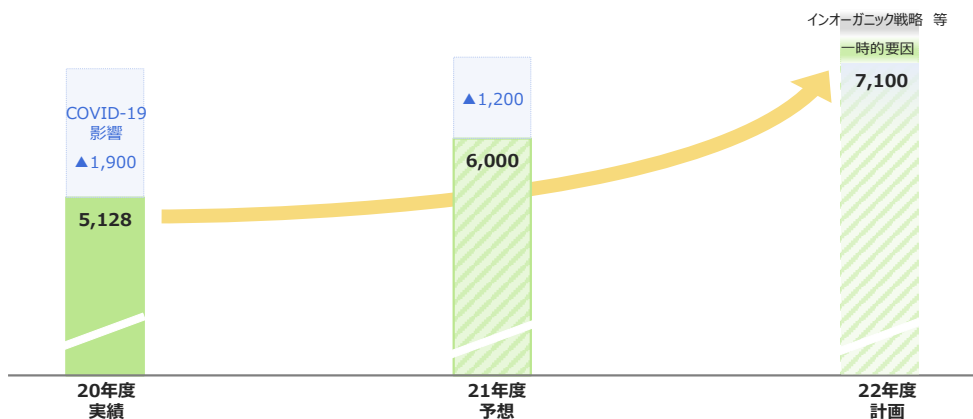
そのためにも、21年度は着実なステップをお示する必要がありますが、米国を中心に金利が上昇しているため、これまでのような市場事業部門における多額の債券売却益は望めません。

こうしたマイナス影響を、リテール・ホールセール・グローバルの3事業部門の重点戦略でしっかりと打ち返し、着実な増益を目指してまいります。

2022年へのロードマップ ③ボトムライン

中期経営計画の想定通り、最終年度のボトムラインは実カベースで7,000億円超が目標
加えて、インオーガニック施策の推進等により、将来的に8,000億円を展望できる水準を目指す

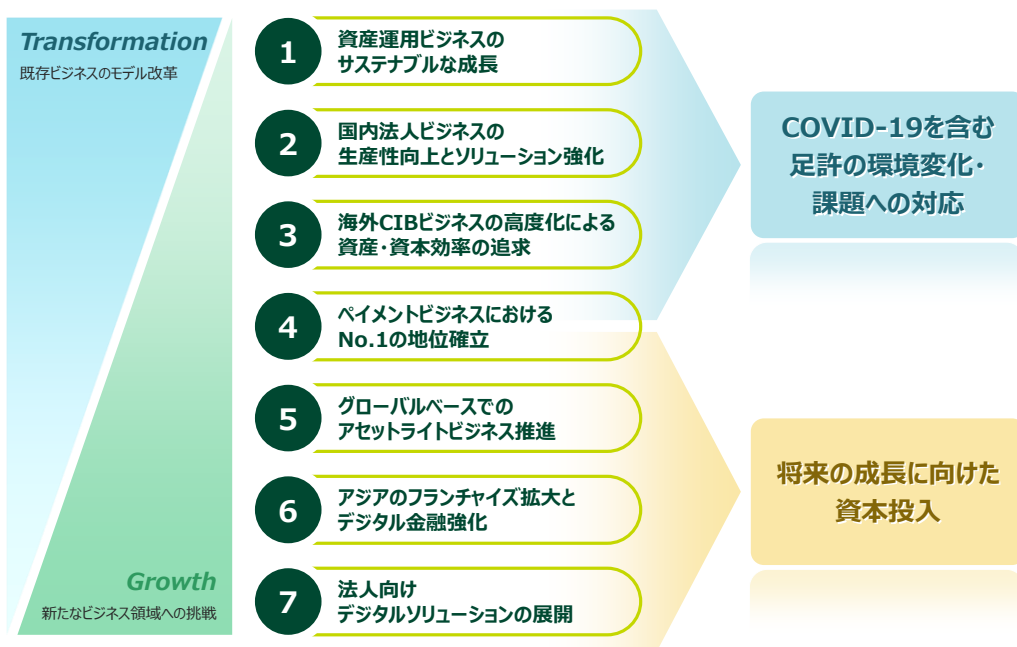
(億円)



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 27

ボトムラインについても、中計最終年度にコロナ影響を打ち返し、
実カベースで7,000億円を超えていくという方針に変更はありません。

7つの重点戦略



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 28
All Rights Reserved.

中期経営計画では、7つの事業戦略とコストコントロール施策をお示しました。

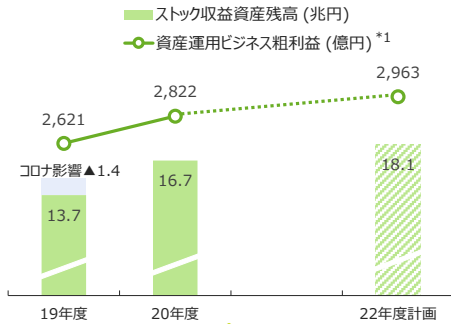
コロナ禍や足許の環境変化を受けて、課題や加速させるべき施策が明確となった分野もあれば、将来の成長のために、変化を捉えて機動的に資本を投入している分野もあります。

本日は、そうした取組を中心にご説明したいと思います。

① 資産運用ビジネスのサステナブルな成長

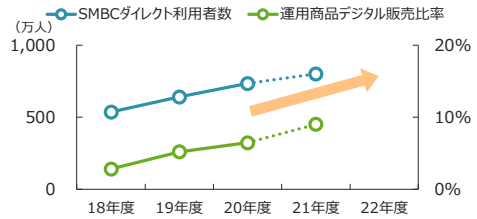
グループ一体アプローチやデジタルチャネルの強化により、サステナブルなビジネスへの転換を加速

資産運用収益は堅調に推移



*1 20年度の管理会計制度変更を反映

デジタルチャネルの活用



SMBCアプリのレベルアップ



資産運用ビジネスは、これまで、サステナブルな成長を目指して、ストック重視の運営を続けてきており、ストック収益資産残高、資産運用ビジネス収益ともに堅調に推移しています。

この4月には、これまで以上にSMBCグループ一体でのアプローチを強化するため、リテール事業部門長の下に、資産運用ビジネスをグループ横断的に統括する、ウェルスマネジメント統括本部長を配置しています。

さらに、コロナ禍によってデジタルチャネルの利用が増加していることも、大きなチャンスです。在宅の時間が増え、また株価も好調だったことから、若者世代の投資意欲も高まっていると考えており、この機会を捉えてスマートフォンアプリのレベルアップを図り、運用商品のデジタル販売も加速させてまいります。そうすることで、損益分岐点の引き下げにも効果があると考えています。

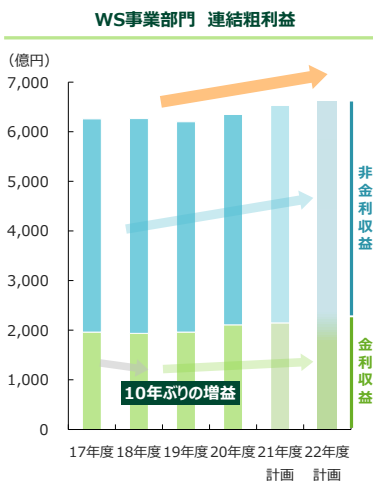
② 国内法人ビジネスの生産性向上とソリューション強化

⑦ 法人向けデジタルソリューションの展開

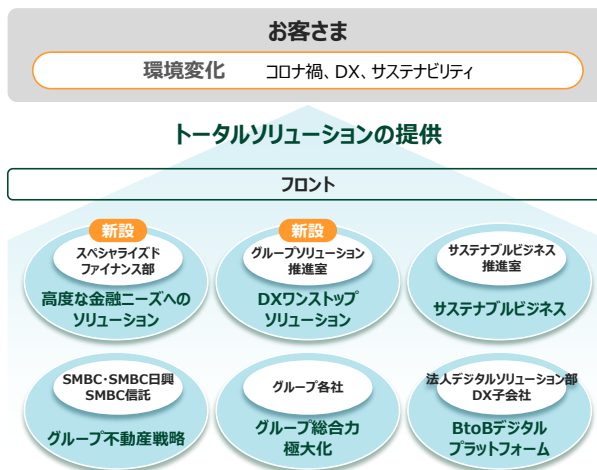
金利収益は反転、増収トレンドが継続

環境変化を捉えたソリューション提供体制の高度化により、手数料ビジネスもさらに強化

収益構造の推移



環境の変化を捉えたトータルソリューションの提供



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

30

国内法人ビジネスは、19年度、スプレッドの低下に長らく苦しんでいた貸金収益が、ついにプラスに転じました。コロナ禍での資金繰り要請への積極的な支援も追い風となり、このトレンドが継続しています。

今後は、非金利収益のプラス分が、そのまま国内法人ビジネスの増益に繋がります。

コロナ禍やDX、サステナビリティ対応など、この1年でお客さまのニーズは、さらに多様化・複雑化しています。

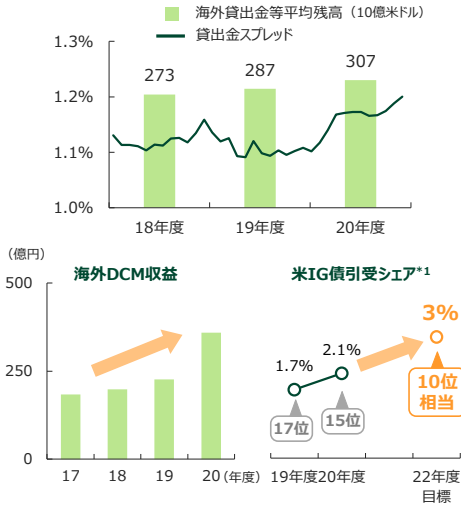
こうしたお客さまの変化を捉え、ソリューションプロバイダーとして、より高度なご提案ができるよう、組織体制も新たに整備しました。

お客さまのあらゆる課題に対するトータルソリューションの提供を通じて、法人ビジネス全体の成長を加速させてまいります。

③ 海外CIBビジネスの高度化による資産・資本効率の追求

証券機能の強化により、海外CIBビジネスの高度化を図る

貸出を通じた証券ビジネスの拡大



*1 REFINITIV (20年4月~21年3月)

CIBビジネスの一層の底上げ



海外CIBビジネス、特に海外証券ビジネスは、
コロナ禍で最も恩恵を受けたビジネスだと思います。

20年度は貸出を伸ばすだけでなく、DCMビジネスにも確りと繋げることができました。

とは言え、競合対比で見れば、マーケットの好況を我々が十分に享受できたとは言えません。
海外証券ビジネスは、中期経営計画における強化すべき課題の一つですが、
逆に言えば、強化する前にマーケットに追い風が吹いてしまったために、
競合との差が際立ってしまったということもできます。

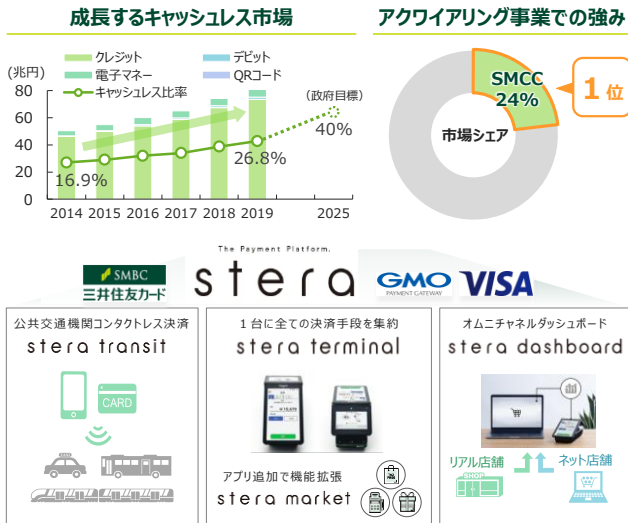
バランスシートの規模を考えれば、我々の海外CIBビジネスには、
まだまだ大きな伸びしろがあると、私は信じています。

今回、SMBC日興証券でのシングルカバレッジ体制と、
グループかつグローバルベースでのセクターカバレッジ体制を構築し、
お客さまのニーズをしっかりと、また幅広く捉える土台が整いました。

SMBCグループの総合力を結集し、
グローバルM&A等の高度なソリューションを提供してまいります。

4 ペイメントビジネスにおけるNo.1の地位確立

steraのプラットフォームを軸にマーケットの成長をリード



外部パートナーとの提携

法人向け決済ビジネス

SAP Concur × SMBC 三井住友カード

経費精算業務の完全自動化 (22年度目途)

申請レス × 入力レス × 承認レス

Co-Brand戦略

LINE Pay × SMBC 三井住友カード

Visa LINE Pay クレジットカード
Visa LINE Pay プリペイドカード

新設 決済・ファイナンス本部長

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 32
All Rights Reserved.

ペイメントビジネスも、コロナ禍でのキャッシュレス決済の急増により、マーケットの拡大が加速している分野です。

その成長を牽引しているのは依然クレジットカードであり、我々は、アクワイアリングで国内No.1という強みを活かして、引続きマーケットをリードしてまいります。

その軸となるのは、次世代決済プラットフォームsteraです。

既に、steraネットワークを軸に、さまざまなサービスを展開しており、こうした付加価値の提供を通じて、No.1の地位をさらに確固たるものにしてまいります。

外部パートナーとの連携もさらに強化していきたいと考えており、特に、経費精算市場のトッププレイヤーであるConcurとの提携は、法人決済ビジネスを新たな収益の柱に育てるポテンシャルがあると確信しています。

また、これまでグループ一体でペイメントビジネスに取り組んできましたが、その方針をより明確にするため、今回、三井住友カードを主体とした決済・ファイナンス本部を新設し、本部長も配置しました。

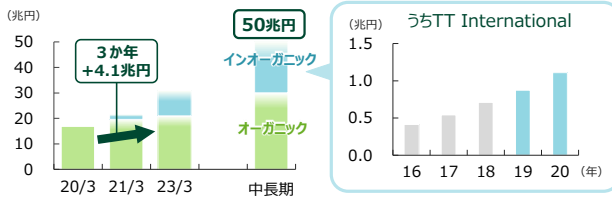
グループベースでペイメントビジネスをさらに加速し、マーケットの成長をしっかりと取り込んでまいります。

⑤ グローバルベースでのアセットライトビジネス推進

アセットマネジメント*1

| | 米州 | 欧州 | アジア | 日本 |
|-------------|-------------------|-----------------------------|----------------|--------------------|
| 株式 | | TT International 100% | 中郵 創業 基金 | 三井住友DS |
| 債券 | ESG債 AIM 17.5% | | 23.7% | 50.1% |
| オルタナ ティブ | | ARES Management 6.1% | | イー・アイ・キャピタル 60% |
| | | ARA Asset Management 10% | | ケネディクス*2 70% |

AUM残高



*1 網掛けは20年以降新たに投資した先、比率はSMBCグループの出資比率
*2 SMFLの孫会社
*3 FIST: Fixed Income Sales & Trading

セールス&トレーディング

グローバルS&Tプラットフォームの整備

- 1 米州FIST体制確立*3
 - グローバルRates体制整備
- 2 アジアでのビジネス基盤拡充
 - 地場通貨、FIST/DCM一体強化
- 3 ノンプロ推進
 - 商品供給・販売力強化

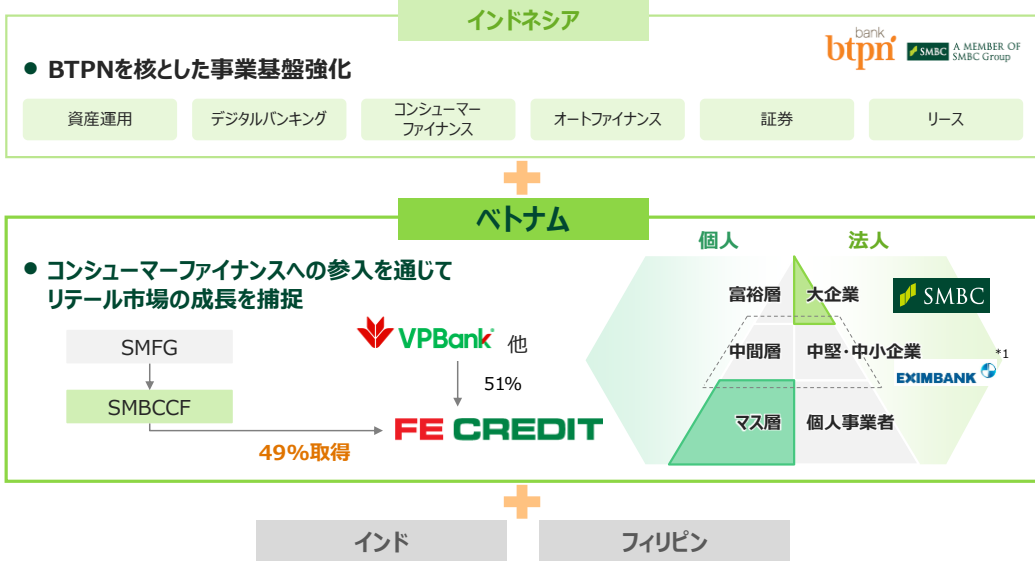
人員増強等の経営資源投入

アセットマネジメントビジネスは、インオーガニックも活用しながら、
プロダクトの拡充と運用地域の拡大に努めており、
中長期的に、運用資産残高50兆円を目指します。

右側のセールス&トレーディングについては、昨年度、競合との差が顕著に表れた分野です。
経営資源を投入し、グローバルベースでのプラットフォームを整備することで、
早急にキャッチアップを図ってまいります。

⑥ アジアのフランチャイズ拡大とデジタル金融強化

① Full Banking、② Localization、③ Commitmentを軸にマルチフランチャイズ戦略を推進
外資規制等で銀行業の参入障壁の高い国は、ノンバンクからの参入を検討



*1 15.07%出資

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 34
All Rights Reserved.

アジアにおいては、現地に根差したフルバンキングを展開するマルチフランチャイズ戦略のもと、まずは、インドネシアにおいて、BTPNを核に事業基盤を強化してまいりました。

中期経営計画の中で、周辺国へもフランチャイズを拡大することを掲げましたが、その第一弾として、先日、ベトナム最大手の消費者金融会社FE Creditへの49%出資を発表しました。

これまで、将来のプラットフォームとなりうるM&Aのターゲットの一例として、アジアの商業銀行を挙げていましたので、今回、「なぜノンバンクなのか」と思われた方もいらっしゃるかもしれません。

これは、ベトナムでは外資規制等で銀行業への参入障壁が高いことから、柔軟に参入方法を検討した結果、成長著しいリテール分野から取り組んでいこうという結論に至ったためです。

右側の三角形でお示しの通り、これまでは大企業にはSMBCの支店、中堅・中小企業には15%出資しているEximbankを通じてアプローチしてきましたが、ここに、リテールの中でも成長性の大きいマス層をカバーするFE Creditが加わることで、フルバンキングに一步近づけたと考えています。

⑥ アジアのフランチャイズ拡大とデジタル金融強化 FE Credit出資について

ベトナムのコンシューマーファイナンス市場を牽引するリーディングプレイヤーに対する稀有な投資機会
引き続き力強い成長が期待でき、投資採算基準も2年で達成見込み

出資概要

| | |
|-------|---|
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> SMBCCFは、VP Bankより、FE Creditの持分49.0%を取得予定 |
| 取得価額 | <ul style="list-style-type: none"> 最大1,500億円規模 一部、業績達成度に応じた出来高払いを含む |
| 財務影響 | <ul style="list-style-type: none"> 投資2年目で採算基準*1達成見込 投資3年目で+100億円程度の収益貢献見込*2 CET1比率：▲10bps 程度 リスクアセット：+700億円程度 |
| 戦略的意義 | <ul style="list-style-type: none"> アジアのフランチャイズ拡大戦略に合致 ベトナムのコンシューマーファイナンス市場の成長を捕捉 SMBCCFのノウハウ・経験を活かし、更に事業基盤を拡大 |

FE Creditの強み

ブランド 約50%の圧倒的シェアと全国的に高い認知度

経営陣 短期間で高い成長を実現させた優れた経営陣

事業内容 デジタル分野における先進的な取組
提携パートナーを通じたエコシステム構築

財務内容 高い収益性：ROE 約20%
効率的な経営：経費率 約30%

*1 ROCET1 8.5%以上 *2 のれん控除前

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 35

出資の概要については既にリリースした通りですが、FE Creditは、ベトナムにおいて市場シェア50%という高い知名度と豊富なリテール顧客基盤を持つリーディングプレイヤーです。

資産規模・収益ともに引き続き力強い成長が期待できる会社で、DXやデータマネジメントの分野でも先進的な取組をしており、相互に学び、高め合うことができるとパートナーとして出資を決めました。

本件によるCET1比率への影響は▲10bp程度であり、十分にコントロール可能な範囲です。

今後、FE Creditとのシナジーを追求して企業価値をさらに高めるとともに、更なる成長に向けて、周辺国への展開も検討してまいります。

⑥ アジアのフランチャイズ拡大とデジタル金融強化 (参考) FE Credit概要

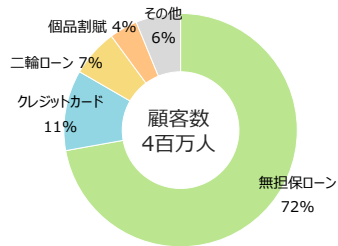
基本情報

| | |
|--------|--------------------------------|
| 会社名 | VPBank Finance Company Limited |
| 商号 | FE Credit |
| 設立 | 2015年 |
| 代表者 | Mr. Lo Bang Giang (Chairman) |
| 従業員数 | 13,000名超 |
| ネットワーク | ベトナム国内20,000か所超に展開 |

主要財務情報*1

| (億円) | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|--------|-------|-------|-------|
| 営業収入 | 744 | 866 | 839 |
| 当期純利益 | 152 | 165 | 137 |
| 総資産 | 2,768 | 3,250 | 3,376 |
| 純資産 | 540 | 576 | 713 |
| 貸出金 | 2,450 | 2,787 | 3,005 |
| 不良債権比率 | 6.4% | 6.2% | 6.6% |
| ROE | 28.1% | 29.6% | 21.2% |

貸出金の構成



株主 VP Bank概要

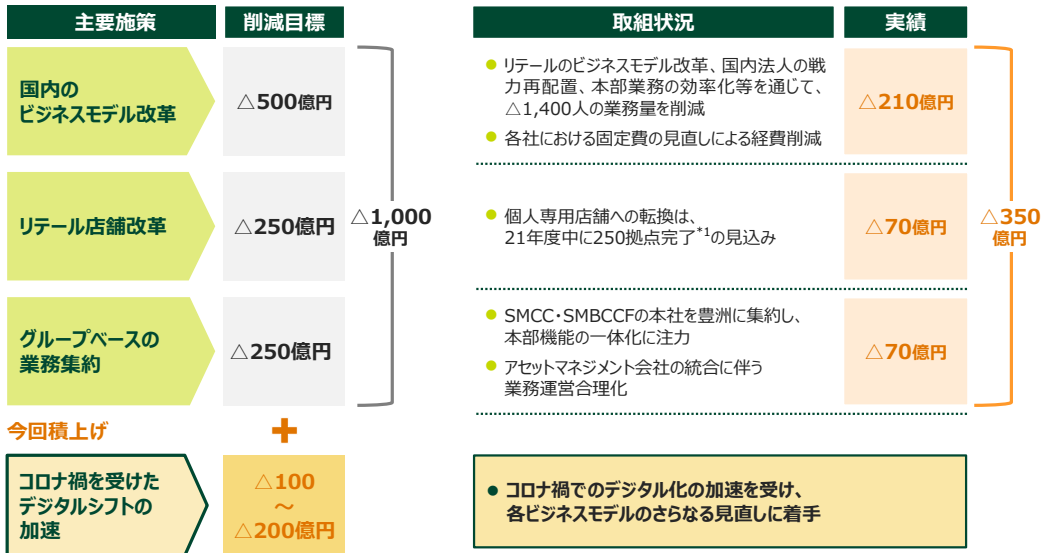
| | |
|-----|--|
| 会社名 | Vietnam Prosperity Joint Stock Commercial Bank |
| 設立 | 1993年 |
| 代表者 | Mr. Ngo Chi Dung (Chairman) |
| 上場 | ホーチミン証券取引所 (ticker: VPB) |
| 格付 | B1 / positive (Moody's) |
| 総資産 | 16,563億円 |

*1 0.0046円/VNDで換算

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 36
All Rights Reserved.

コストコントロール

既存の削減目標△1,000億円に加え、デジタルシフト等の環境変化を踏まえた追加削減を実施



*1 別途、地方独立拠点等、50拠点程度の軽量化も検討

コストコントロールです。

昨年5月に1,000億円のコスト削減施策をお示しましたが、
ここから更に、100億円から200億円程度の削減額の上積みを目指します。

この達成は容易ではありませんが、20年度を振り返ると、
コロナ禍で一部施策に遅れが出た一方、
デジタルシフトの加速や、コロナ禍を起因とした当初想定しなかった経費の減少等、
追い風となる変化も出てきています。

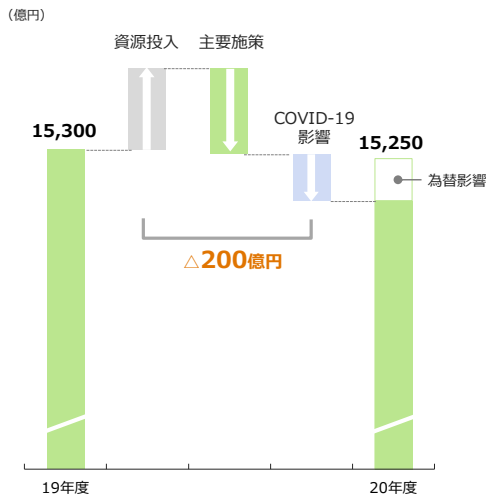
この風に乗遅れることなく、グループ全体でコストコントロールに全力で取り組み、
今回追加した分も含めて、目標達成に拘ってまいります。

(参考) ベース経費・人員計画等

ベース経費は19年度比で△200億円減少

人員計画も、さらなる業務の効率化を通じて、中期経営計画の想定を超える減少幅となる見通し

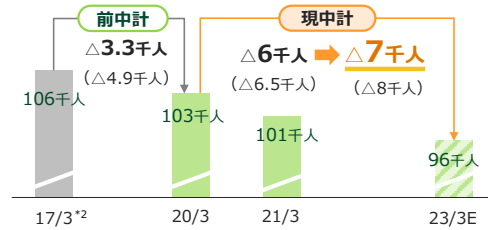
ベース経費*1



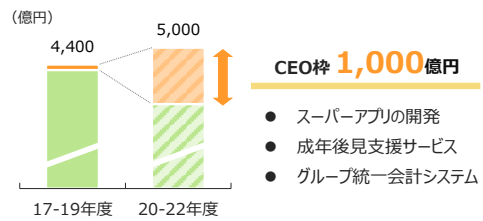
*1 営業経費から「収益連動経費」「先行投資にかかる経費」等を除いたもの
*2 再編影響を適及処理

人員計画

() は国内人員



IT投資



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 38

(参考) グループ統一会計システムの導入

経理業務の集約・標準化を通じた業務効率化とコスト抑制を実現



*1 SMFG, SMBC, SMBC日興, SMBC信託, SMBCファイナンスサービス

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 39

昨年11月、次世代勘定系システムの開発についてご紹介しましたが、グループ経営のさらなる高度化・効率化のために、IT投資におけるCEO枠を活用し、グループ統一会計システムの導入にも取り組んでいます。

グループ各社の経理業務を集約・標準化して、業務効率化とコスト削減を図る狙いですが、将来的には、グループ横断的なCREマネジメントや人事管理についても応用していきたいと考えています。



Ⅲ. Quality

ここからは、経営基盤における基本方針、Qualityについて、ご説明します。

気候変動への対応加速

施策パッケージ「気候変動ロードマップ」を策定するとともに、石炭火力発電所に関する方針を見直し



| | 主要施策 | 具体的な取組 |
|---------|---------------------|---|
| ① 戦略 | Scope3の把握・目標策定 | 投融資ポートフォリオのGHG排出量把握と中長期目標の設定 |
| ② 戦略 | Scope1&2削減に向けた取組の加速 | SMBCグループのGHG排出量を2030年に実質ゼロに |
| ③ 戦略 | 気候変動対策・脱炭素化ビジネスの強化 | 2030年までのサステナブルファイナンス実行額を30兆円に |
| ④ ガバナンス | 経営管理体制の高度化 | グループCSuO (Chief Sustainability Officer) の設置 |
| ⑤ リスク管理 | リスク管理体制の強化 | 気候変動シナリオ分析の高度化 |
| | 指標・目標 KPI・目標の設定・管理 | - |

石炭火力発電への対応方針見直し

改訂 石炭火力発電所の新設および拡張案件への支援は行わない

*1 Greenhouse Gas (温室効果ガス)

まず、気候変動への対応です。

昨年10月に日本政府が「2050年カーボンニュートラル」を宣言しましたが、気候変動に対する取組は世界的に加速しており、我々グローバル金融機関が果たすべき役割も、劇的に変化してきています。

そこで、先日リリースした通り、我々が2050年までに取り組むべき施策パッケージとして「気候変動ロードマップ」を策定し、まずは、現在の中期経営計画の中で取り組むアクションプランとあわせて公表しました。

いわゆる、Scope 1・2と言われる自社による温室効果ガスの排出については、対象をSMBCグループ全体に拡大し、2030年までに実質ゼロを目指します。

Scope 3、すなわち投融資先による排出量に対しては、まずはこの中期経営計画の中で、排出量の把握と中長期目標の設定を行い、2050年までの達成を目指してまいります。

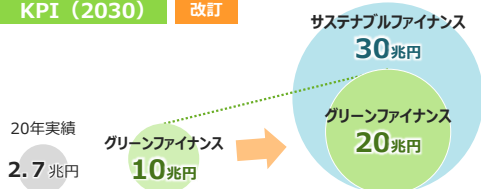
また、石炭火力発電に対する支援に対しては、これまで2040年までに残高をゼロにするとお伝えしてきましたが、方針をさらに厳格化し、新設および拡張案件への支援は行わないことを明確化しました。

サステナブルビジネスの推進

サステナブルファイナンス

グリーンファイナンス

KPI (2030) 改訂



グローバルリーグテーブル
(グリーンローン取組額) *1

| 金融機関 | シェア |
|-------------------|-------|
| 1 Credit Agricole | 10.0% |
| 2 SMBC | 7.8% |
| 3 BNP Paribas | 7.4% |

グリーン預金*2

本邦初



GREENxGLOBE Partners (20/7設立)

| | パートナー企業 (社) | イベント参加 (人) |
|------|--|--|
| 20/9 | 47 | 25 |
| 21/4 | ↑ 109 | ↑ 708 |



新技術開発

水素バリューチェーン推進協議会

- 立上げを主導し、理事会員の1社に
- 21/3、経済産業省に水素社会実現に向けた政策提言を実施



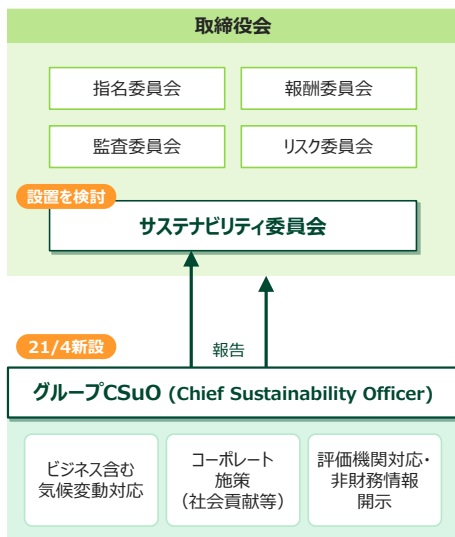
*1 出所: Dealogic社 (2020年度) *2 預金を、再生可能エネルギー等の「グリーン適格プロジェクト」に対する融資に充当し、運用状況について第三者機関より定期的に評価を取得するスキーム

サステナブルビジネスの推進では、
左上、これまで10兆円としていた2030年までのグリーンファイナンスの目標額を
20兆円に拡大するとともに、ソーシャルボンド等も含めたサステナブルファイナンスでは、
30兆円という高い目標にチャレンジします。

20年度の実績は2.7兆円、グリーンローンのリーグテーブルでは2位を獲得するなど、
順調なスタートを切っています。

ガバナンス

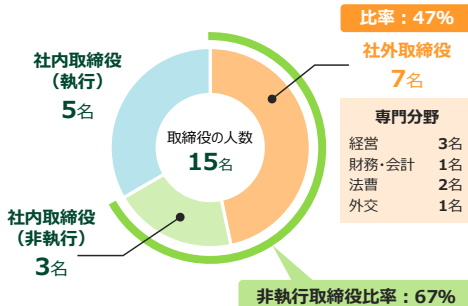
サステナビリティ経営高度化



取締役会の多様性向上

女性 2名 外国籍 1名

21/4 30% Club Japanへ加盟



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 43

ガバナンス面においてもサステナビリティの実現を支えるべく、
本年4月に、グループCSuO、すなわちChief Sustainability Officerを設置しました。

また、取締役会内にサステナビリティ委員会を設置することも検討しており、
持続可能な社会の実現に向けた課題や戦略について、
これまで以上に重点的に議論してまいります。

(参考) 社外取締役のスキルマトリクス

| | 就任年 | 就任予定の委員会 (◎は委員長) | | | | 当社が特に期待する知見・経験 | | | | |
|--------------|------|------------------|----|----|-----|----------------|----|-------|----|------|
| | | 指名 | 監査 | 報酬 | リスク | 企業経営 | 金融 | グローバル | 法律 | 財務会計 |
| 松本 正之 | 2017 | ○ | ◎ | | | | | | | |
| アーサーM. ミッチェル | 2015 | ○ | | ○ | | | | | | |
| 山崎 彰三 | 2017 | | ○ | | ◎ | | | | | |
| 河野 雅治 | 2015 | ○ | | | ○ | | | | | |
| 筒井 義信 | 2017 | ◎ | | ○ | | | | | | |
| 新保 克芳 | 2017 | | ○ | ◎ | | | | | | |
| 桜井 恵理子 | 2015 | ○ | | ○ | | | | | | |

ステークホルダーとのコミュニケーション

サステナビリティ関連主要KPI

| | ESG主要KPI | 目標 | 20年度実績 |
|--------|---------------|------------------|---------|
| 環境 | グリーンファイナンス取組額 | 20 兆円 30年度まで | 2.7 兆円 |
| | グリーンボンド発行 | 年1回以上 | 1 回 |
| コミュニティ | アジアテール預金残高 | 3 倍 22年度まで | 2 倍 |
| 次世代 | 金融リテラシー教育 | 150 万人 30年度まで | 13.2 万人 |
| 人材 | 女性管理職比率 | 20 % 25年度まで | 15.8 % |
| | 育児休業取得率 | 100 % | 100 % |

エンゲージメントを通じた企業価値向上プロセス



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 45

ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションです。

企業としての持続的な成長を実現し、株主価値を高めていく上では、財務目標の達成はもちろん、非財務面で企業価値を持続的に高めていくことも、極めて重要です。

右側にお示しの通り、非財務情報を積極的に開示し、ステークホルダーの皆さまとの適切なエンゲージメントに努めることで、株主資本コストを低減させ、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。

(参考) サステナビリティ経営の加速

グループCEOによるイニシアチブの下、事業を通じた社会的課題の解決とSDGsの実現を目指す

サステナビリティ経営体制の確立



(参考) ESGインデックス・イニシアティブ

ESGインデックスへの組入

GPIF選定インデックス



FTSE Blossom
Japan



S&P/JPX
Carbon
Efficient
Index

2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX

2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)



FTSE4Good

2020



Sompo Sustainability Index



国内外イニシアティブへの賛同

WE SUPPORT



Signatory of:



UNEP
FINANCE
INITIATIVE

PRINCIPLES FOR
RESPONSIBLE
BANKING



We
Support



DISCLOSURE INSIGHT ACTION



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 47
All Rights Reserved.

(参考) 外部からの評価

ディスクロージャー
2020年度 優良企業



ディスクロージャー
個人投資家向け情報提供
2020年度 優良企業



(SMBC)



(SMBC日興)



2020

健康経営優良法人
Health and productivity

NIKKEI
Smart Work

★★★★ 2021



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 48
All Rights Reserved.

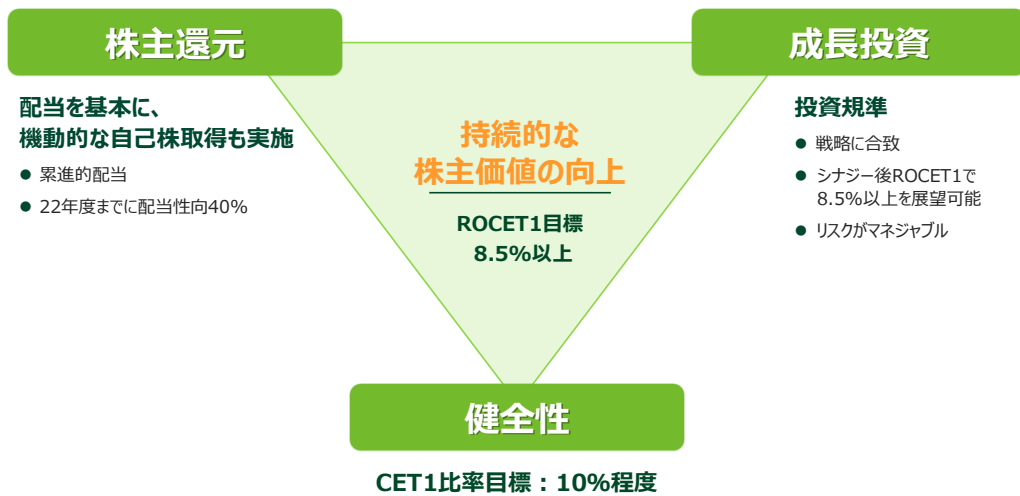


IV. 資本政策

続いて、資本政策です。

資本政策の基本方針

健全性確保、株主還元強化、成長投資をバランスよく実現



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 50
All Rights Reserved.

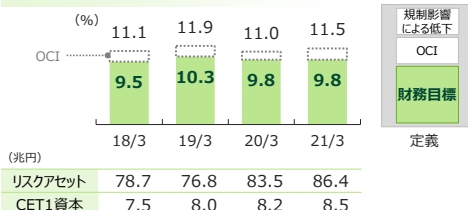
資本政策の基本方針は、これまで通り、健全性確保、株主還元強化、成長投資をバランスよく追求してまいります。

資本の状況

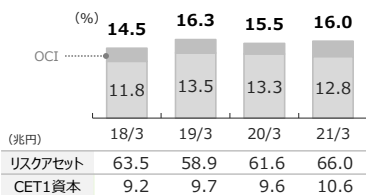
お客さまの資金繰り支援にしっかりと対応しつつ、十分な資本水準を維持

CET1比率推移

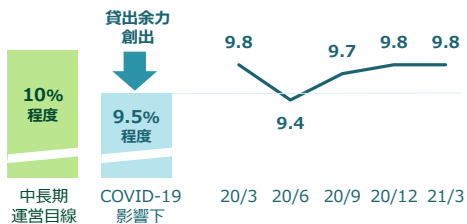
財務目標：バーゼルⅢ最終化・除くOCI



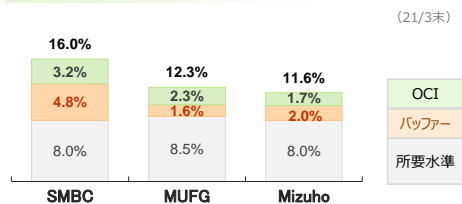
現行規制：完全実施基準



COVID-19影響下の資本運営



3メガ比較（完全実施基準）



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

51

資本の状況です。

20年度は、コロナに苦しむ国内外のお客さまへの資金繰り支援を最優先に位置付け、CET1比率は、健全性目標である10%程度から▲0.5%切り下げて、9.5%を中心に±0.5%程度で運営することとしました。

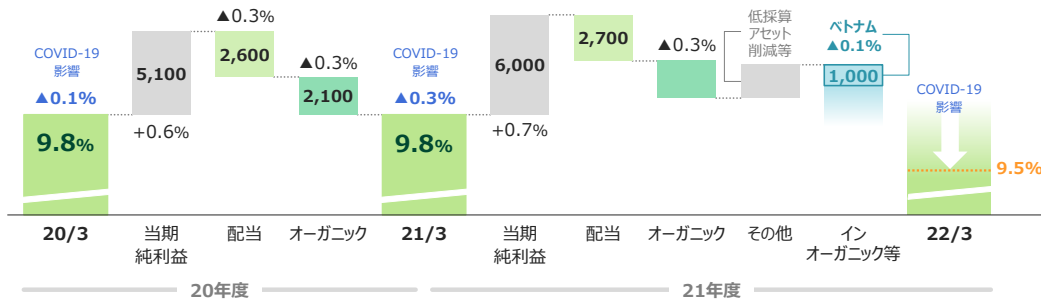
コロナ関連の貸出金は期初想定範囲内に収まり、起債市場の回復に伴って返済も進んだ結果、21年3月末のCET1比率は9.8%と、想定したレンジの上方で着地し、引き続き健全性を確保しています。

株主還元策

中期経営計画で掲げる株主還元強化の実現に向けて、21年度は前年比+10円の増配予想
自己株取得は、COVID-19影響見極めのため実施の判断を見送り

| | 19年度 | 20年度 | 前年比 | 21年度予想 | 前年比 |
|---------|--------------|---------|----------|---------|--------|
| 1株当たり配当 | 190円 | 190円 | ±0円 | 200円 | +10円 |
| 配当性向 | 37% | 51% | +14% | 46% | ▲5% |
| 自己株取得 | 19/5 1,000億円 | - | - | - | - |
| 総還元性向 | 51% | - | - | - | - |
| ボトムライン | 7,039億円 | 5,128億円 | ▲1,911億円 | 6,000億円 | +872億円 |

資本配賦



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 52

先日公表した株主還元策です。

まず配当ですが、20年度、ボトムラインは減益となりましたが、
累進的配当方針に基づき、期初予想通り、190円で据置としました。

配当性向は51%へ上昇しましたが、減益によって配当性向目標40%達成とはせず、
中期経営計画で目指す7,000億円超のボトムライン水準での達成を目指してまいります。

21年度は、これまでご説明した施策やコストコントロールの加速を通じ、
相応の確度でボトムライン目標を達成できると考えており、
配当性向目標達成に向けた着実な一歩として、
期初予想の段階から、10円増配の200円としました。

一方、自己株取得については、5月時点での実施判断を見送りとしました。

国内ではワクチン接種が充分に進展せず、変異株の感染拡大が続き、
緊急事態宣言も再度延長される等、コロナの収束は見通せず、
不透明な環境が続いております。

日本と比べ、ワクチン接種が格段に進んでいる欧米ですら、
株主還元に対する制限を完全には解除していません。

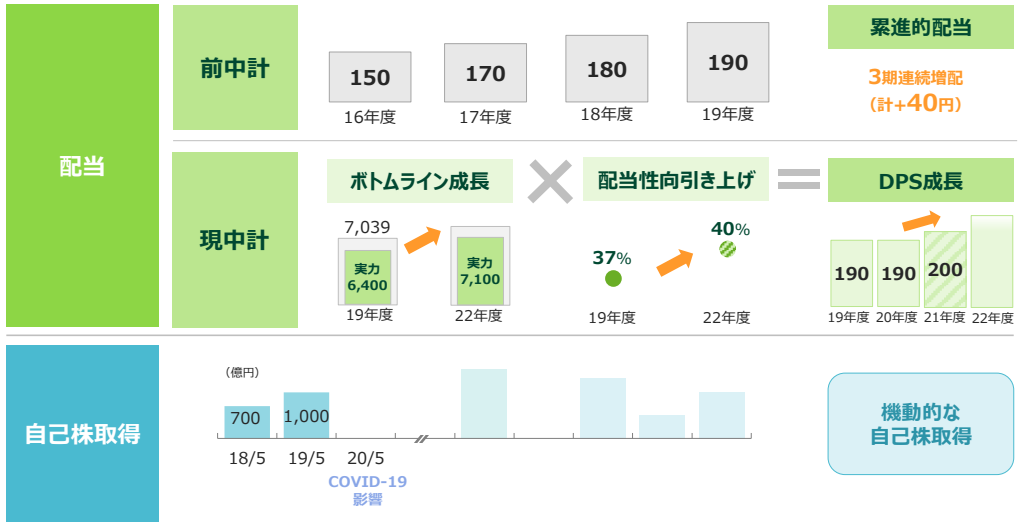
早くとも7月以降、ストレステストの結果を見極めた上で、平時の運用へと戻す方針であり、
現時点での自己株取得は、慎重に判断すべきと考えています。

もちろん、資本の厚さは我々の強みであり、また、株価が割安な水準に留まる中、
自己株取得に対し、投資家の皆さまから期待する声が多かったことは
十分に認識しています。

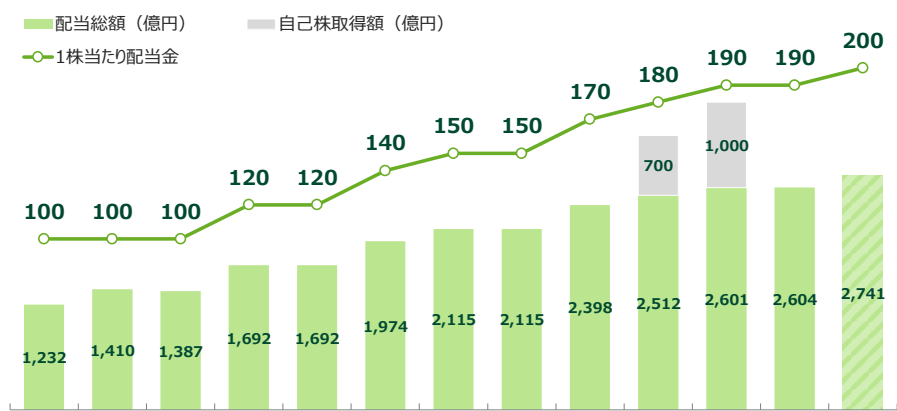
コロナ影響や海外動向を見極めつつ、年度中も引き続き、
機動的な自己株取得の機会を追求してまいります。

(参考) 株主還元強化

累進的配当を継続しつつ、ボトムライン成長と配当性向引き上げにより、更なる増配を目指す
自己株取得も機動的に実施



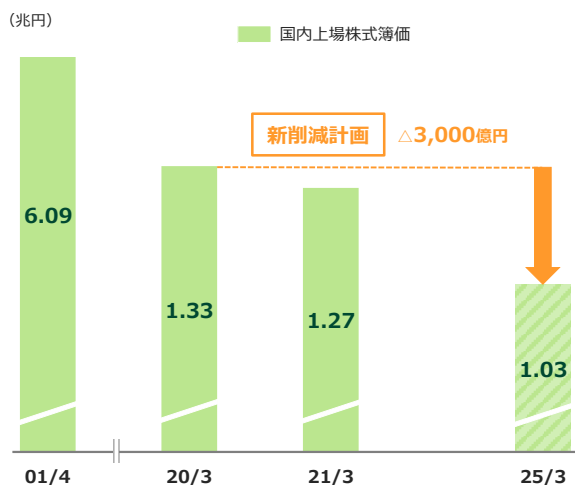
(参考) 株主還元推移



| (年度) | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21E |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 配当性向 (%) | 47 | 30 | 27 | 21 | 20 | 26 | 33 | 30 | 33 | 35 | 37 | 51 | 46 |
| 総還元性向 (%) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 44 | 51 | - | - |
| 親会社株主純利益 (億円) | 2,716 | 4,759 | 5,185 | 7,941 | 8,354 | 7,536 | 6,467 | 7,065 | 7,344 | 7,267 | 7,039 | 5,128 | 6,000 |

政策保有株式

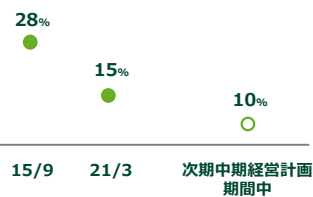
2025年3月までの5か年で△3,000億円を追加削減。20年度は△550億円を削減



削減状況

| | |
|-------------------|---------|
| 前削減計画 (15/9-20/9) | 5,100億円 |
| 新削減計画 (20/3-) | |
| 削減額 | 550億円 |
| 未売却の売却応諾残高 | 540億円 |
| 削減・応諾済総計 | 1,090億円 |

CET1^{*1}に対する株式の比率



*1 バゼルⅢ完全実施基準、除OCI

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 55

政策保有株式の削減については、昨年5月、20年4月からの5か年で3,000億円削減する計画を発表しました。その1年目である昨年度は550億円と、概ねインラインの進捗です。



V. カラを、破ろう

最後に、「カラを、破ろう」というテーマのもと、新しいビジネスを育てるために私がCEOとしての取り組んでいる内容について、お話しします。

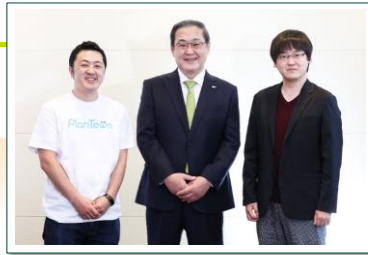
社長製造業への取組

社内ベンチャー起業を積極的にサポートし、SMBCグループの新たな成長の柱を育てる

法人デジタルプラットフォーム

PlariTown

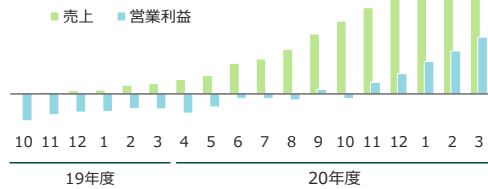
20/12 本格サービス開始



電子契約サービス

SMBC
SMBCクラウドサイン

20年度 通期黒字達成



GMOデータ NC^{ore} Polarify SMBCバリュークリエーション LAND DATA BANK SMBCGMO PAYMENT brees

Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 57

これまでに何度かお話ししている「社長製造業」は、現在までに9社が立ち上がりました。

中でも、SMBCクラウドサインは、設立からわずか1年半で通年黒字化を達成するなど、一定の成果が出てきています。

私が「社長製造業」に力を入れている目的は3つあります。

一つ目に、グループの収益成長に貢献する、新たなビジネスを育てること。

二つ目に、こうした新会社のサービスを通じて、お客さまに提供できる付加価値を高めていくこと。

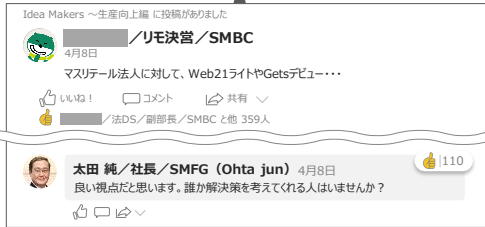
最後に、「頑張ればこんなことができる」と示すことで、社員のマインドセットを変え、変革へのモチベーションを上げることです。

若手を積極的に社長に登用しているのは、特に、この3つ目の理由に因るところが大きく、他の社員が刺激を受けて、新たなビジネスの種がどんどん出てきて欲しいと願っています。

新たなビジネスの種を育てる仕組みづくり

社内SNS ミドリば

部署や職位を超えた活発なコミュニケーションを促進



利用者 **21,000人** アクティブユーザー **6,000人**

次世代ワークプレイス

イノベーション・コミュニケーションを誘発するオフィス



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved. / 58

そうした種を育てるために、昨年ご紹介した社内SNSをスタートさせました。

このSNS内で愛称も募集し、「みどりの広場」、略して「ミドリば」と名付けています。

毎日色々なやり取りが飛び交っており、私も時々いいね！やコメントをしていますが、案件化できそうなアイデアもいくつかあり、非常に楽しみにしています。

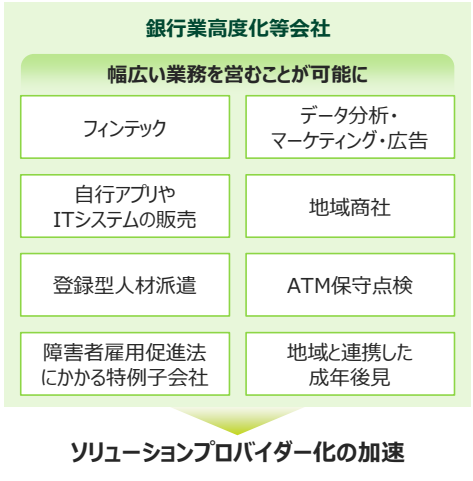
一方、オンラインだけではなく、コロナ禍を経たからこそ、リアルでの交流も大切にしたいと思っています。試行中の次世代ワークプレイスは、シチュエーションに応じて、従業員が働く場所を自律的に選択することで、イノベーションやコミュニケーションを誘発するよう意識したデザインになっています。

社員には生き生きと仕事をしてもらいたいし、自らの、そして会社のカタも破ってほしい。それができる環境を整えるのが私の役目だと思っています。

新たなビジネス領域への挑戦

金融・非金融の垣根を超え、ソリューションプロバイダーとして、お客さまのさらなる利便性向上を追求

銀行の業務範囲規制等の見直し 21年中見込



広告業務によるお客さま利便性の向上 検討中

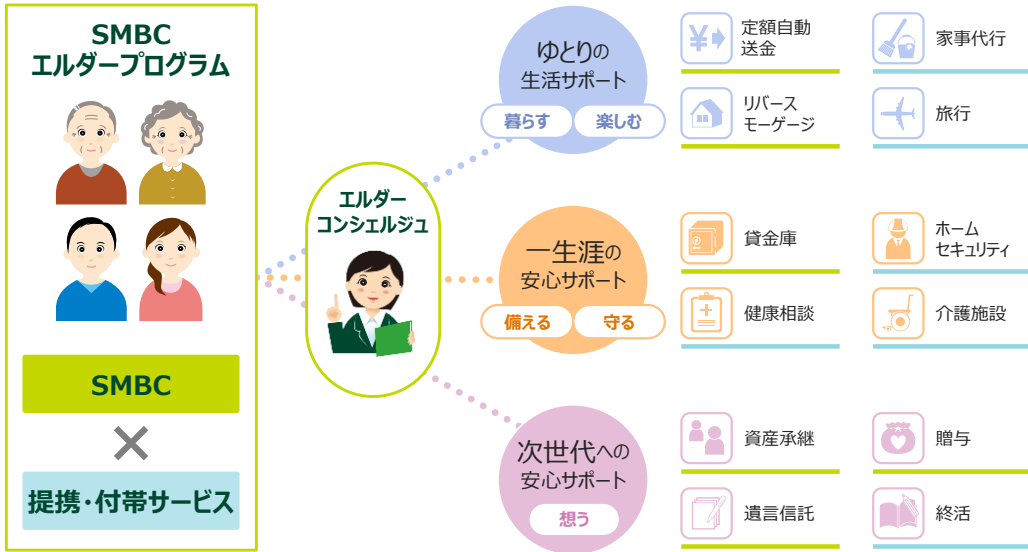


今後は、銀行の業務範囲規制等の見直しにより、銀行子会社に新しいビジネス分野が解禁されることになっており、我々にとっては、収益源をさらに多様化していく絶好のチャンスです。

まだアイデア段階ではありますが、広告業務への挑戦を検討しており、金融・非金融の垣根を超えたソリューションプロバイダーを目指して、様々な可能性を追求していきたいと思っています。

SMBCエルダープログラム

人生100年時代におけるお客さまのニーズに対し、金融・非金融の垣根を超えた付加価値の高い提案を実現



Copyright © 2021 Sumitomo Mitsui Financial Group. / 60
All Rights Reserved.

先日リリースしたSMBCエルダープログラムは、人生100年時代において、特にご高齢のお客さまのニーズが多種多様化する中、金融業というカラを破って取り組んでいるビジネスです。

金融・非金融の垣根なく、専任のコンシェルジュを通して、定額課金制で、さまざまなサービスを提供しております。

リテールのプラットフォームを活用し、お客さまにより利便性の高いサービスを提供すべく、今後も内容の充実に努めてまいります。



私からの説明は以上ですが、冒頭にも申し上げた通り、20年度はコロナに始まり、コロナに終わった一年でした。

それでも、特にアメリカの銀行は、マーケットの変化を的確に捉え大きな成果を上げています。

21年度は、一定のコロナ影響は残るとは言え、もうそれを言い訳にペースダウンすることは許されません。

中期経営計画の2年目であり、最終年度の目標達成を確実にするための、非常に重要な1年です。

これまでにご説明した施策を、軸をぶらさずにスピード感をもって取り組むことで、SMBCグループはコロナ禍を経てさらに強くなったと評価していただけるよう、頑張っております。

投資家、アナリストの皆さまには、引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願い致します。